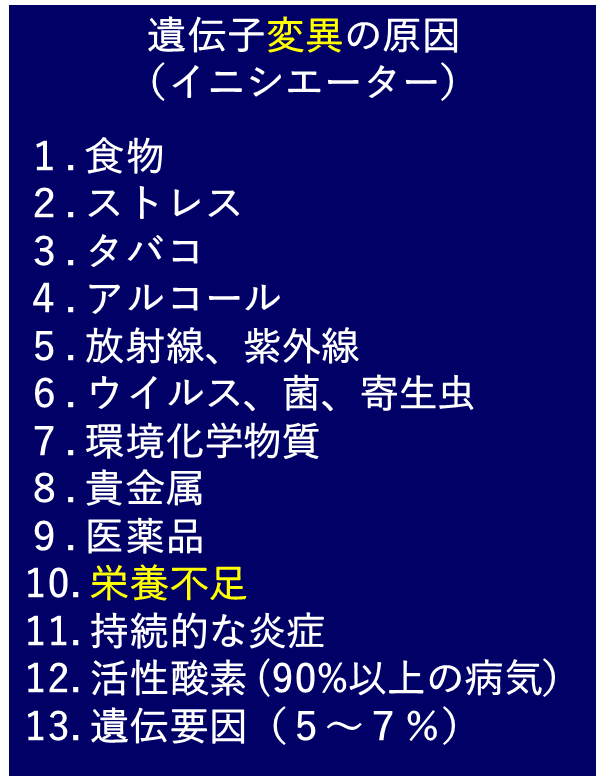
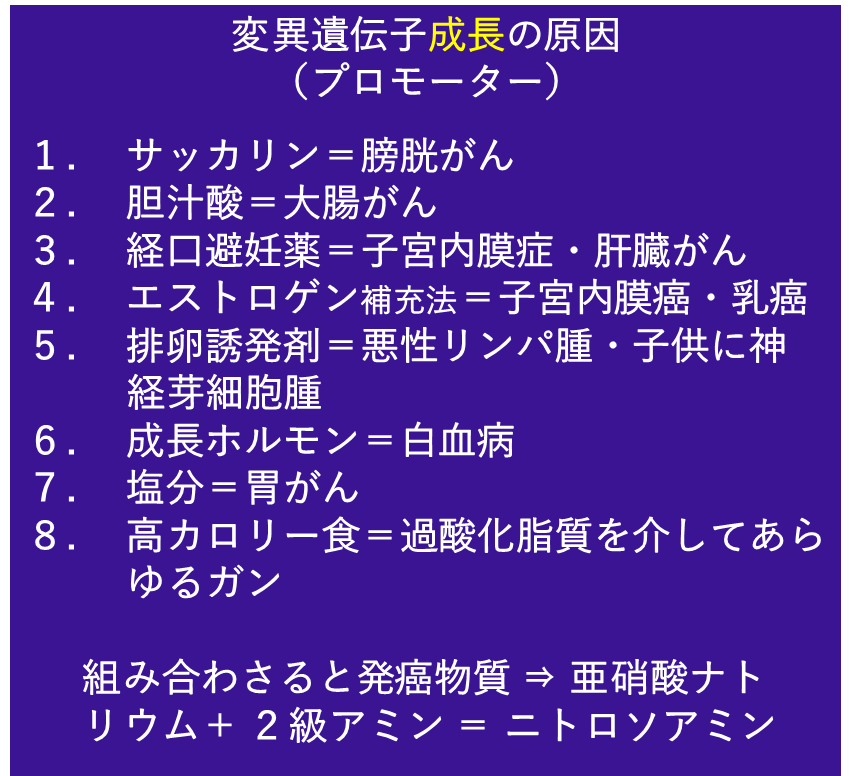
**ガンとは**

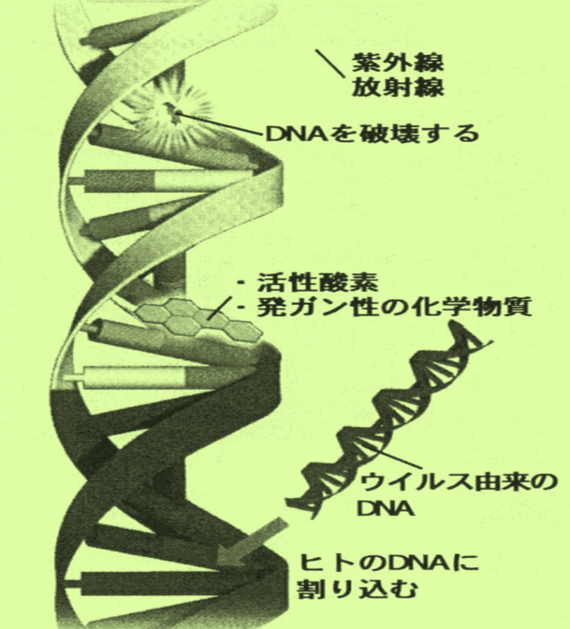
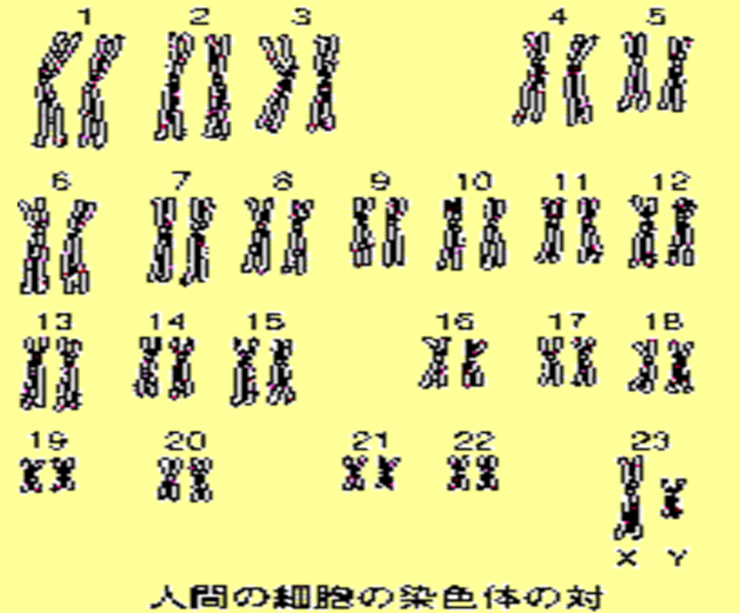
**①　ヒトの体内のDNAが傷付けられ、又は変異して異常を来たした時が癌の誕生である。**

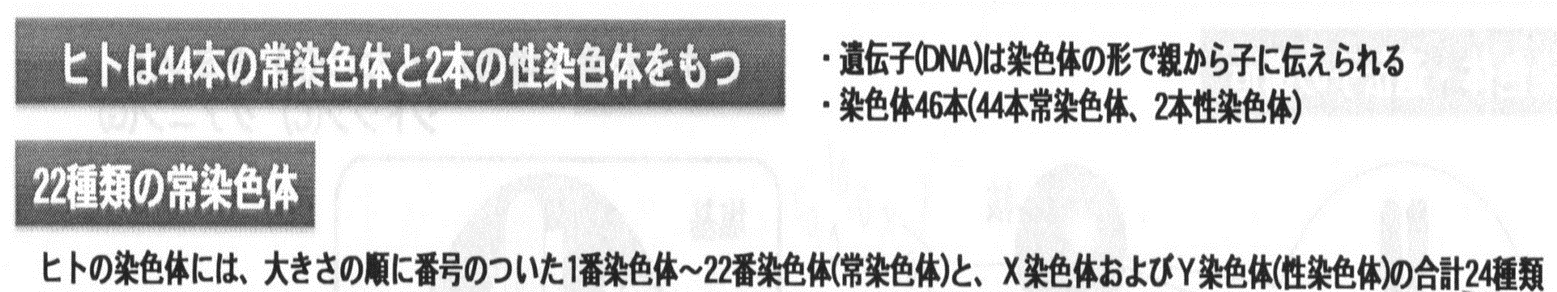
**②　癌には、生みの親＝イニシエーター　と　育ての親＝プロモーターがある。**

****

**③　DNAの中には２３対＝４６本の「染色体」が収められている。**

**両親から２３本ずつ受け継ぐ　正確に複製され。**

****

****

例えば、ダウン症候群は、21番目の染色体が3本ある疾患で、（13・18トリソミーもある）知的障害、成長障害、心臓病、甲状腺機能の問題等を併発します。

**④　細胞の中には様々な化学物質が入り込んでいる＝これもガンの原因。**

**⑤　体内に異物を入れないことが最も重要であり、入れざるを得ない現代の社会がある。**

**⑥　だから出す（デトックス）。**

**⑦　NK細胞が元気でさえあれば、ガンは防げる！！**

**デオキシリボ核酸という言葉の由来とは？**

まず、**DNA**（**デオキシリボ核酸**、**deoxyribonucleic acid**）と**RNA**（**リボ核酸**、**ribonucleic acid**）という**言葉自体の由来**についてですが、

両者の言葉に共に含まれている「**核酸**（**nucleic acid**）」という言葉は、生物の**細胞核の中に多く含まれる**、**塩基・糖・リン酸**から構成される高分子物質のことを意味しています。

つまり、細胞の**核の中に含まれている酸性の物質**なので、DNAやRNAといった遺伝物質は「**核酸**」と呼ばれているということです。

そして、

その**核酸の構成成分**である**糖の種類**が、**リボース**（**ribose**）という構造をしている場合はリボ核酸（ribonucleic acid）と呼ばれ、**デオキシリボース**（**deoxyribose**）という構造をしている場合はデオキシリボ核酸（deoxyribonucleic acid）と呼ばれることになるのです。

それでは、この**リボース**と**デオキシリボース**の違いは具体的にどのようなところにあるのでしょうか？

**リボースという糖**は、**アラビアゴム**（**gum arabic**）という樹脂の一種から、**異性体※**である**アラビノースという糖**と共に抽出されることによって発見された物質であり、

**リボース**（**ribose**）という言葉自体は、その**異性体であるアラビノース**（**arabinose**）という単語の**部分的なアナグラム**（語順の組み換え）によってつくられた**かなり適当な造語**ということになります。

**※異性体**とは、**分子を構成する原子の種類と数は同じ**だが、原子同士の**結合状態や立体配置が違う**ため**異なる性質を示す**化合物のことを指します。

一方、**デオキシリボース**（**deoxyribose**）の「デオキシ（deoxy）」とは、

「**de-**（**分離・除去**を表す接頭辞）」と「**oxy**gen（**酸素**）」が組み合わさってできた言葉であり、**「酸素が除去された」という意味**を表すことになります。

つまり、

**デオキシリボース**（**deoxy**ribose）は、**リボース**（ribose）に対して、**酸素原子が1つ減少した構造**をしているという点に両者の構造の具体的な違いがあり、

以上のことが語源となって**DNA**（**デオキシリボ核酸**）と**RNA**（**リボ核酸**）という言葉がつくられたということになるのです。

